

一般国道168号 ^{かわつ}川津道路
奈良県（道路建設課）

1. 再評価対象事業一覧表
2. 事業評価項目一覧表
3. 説明資料

平成26年度 再評価対象事業一覽表(第1回委員会)

[illegible]

事業評価項目一覧表

事業名	地域連携道路事業	事業主体	奈良県
河川・道路名等	一般国道168号	事業箇所	川津道路
評価項目及び評価内容			
事業の目的及び必要性 <input type="checkbox"/> 目的 ・南海トラフ巨大地震等の大規模災害への対応、紀伊半島における広域的な緊急輸送路の確保 <input type="checkbox"/> 必要性 ・土砂崩落等による通行規制の回避、幅員狭小及び線形不良の解消(資料p.8～11)			
事業策定の経緯 <input type="checkbox"/> 当時の状況 ・幅員狭隘で線形不良、崩土落石の危険箇所が多く、早期の改良が必要な状況 <input type="checkbox"/> 着手までの経緯 ・平成6年に五條新宮道路が地域高規格に指定(資料p.6,8)			
事業の効果(費用対効果や施策的な効果など) <input type="checkbox"/> 計画時の効果 ・B/C=1.4 <input type="checkbox"/> 現時点の効果 ・B/C=1.5 1工区L=2.1km部分供用(資料p.12)			
事業の進捗状況(着手時からの社会経済情勢の変化、事業の問題点、克服度など) <input type="checkbox"/> 進捗状況 ・事業進捗率：86% <input type="checkbox"/> 執行の遅延及び原因 ・執行の遅延は発生していない。(資料p.14)			
事業進捗の見込み <input type="checkbox"/> 進捗の対策 ・用地取得は完了 ・残工事2,200mの内、2,160mは着工済 ・平成26年度以降は、トンネル工事、補強土壁工事、軽量盛土工事を予定 <input type="checkbox"/> 進捗の見込み ・平成27年度事業完了予定(資料p.14)			
事業の対策 ・平成27年度の完成を目標に事業推進に努める。			
その他 <input type="checkbox"/> 関係機関等の意向 ・沿線市町村により構成される国道168号整備促進協議会から早期整備に対する強い要望がある <input type="checkbox"/> 関連事業の有無 県施工：阪本工区、辻堂バイパス 国施工：長殿道路、風屋川津・宇宮原工区、十津川道路(資料p.4,13)			

平成26年度 第1回 奈良県公共事業評価監視委員会

一般国道168号 ^{かわつ}川津道路

平成26年11月

奈良県県土マネジメント部道路建設課

目 次

1. 路線の状況
2. 川津道路の事業の概要
3. 事業の必要性等に関する視点
 - 1) 事業の整備効果
 - 2) 事業の投資効果
 - 3) 奈良県における計画等
4. 事業進捗の見込みの視点
5. コスト縮減の視点
6. 対応方針(案)

1. 路線の状況(紀伊半島アンカールート)

大規模災害に備えた道路ネットワーク

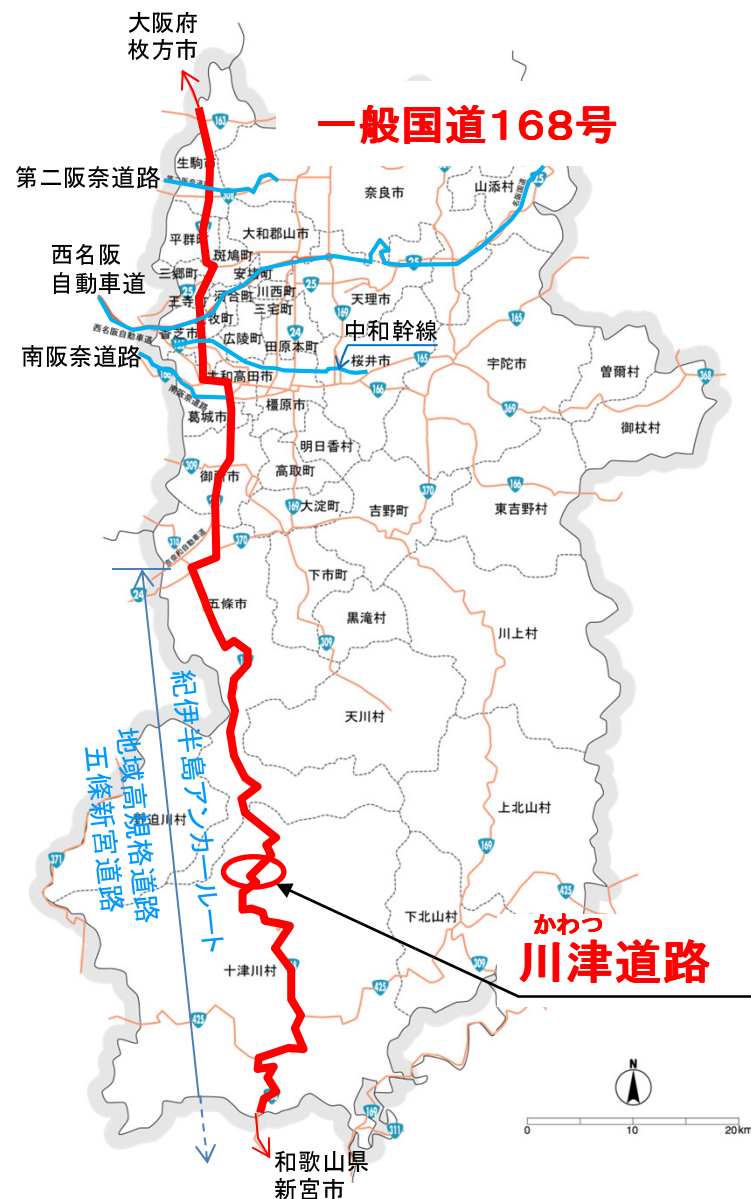
- ◆一般国道168号五條新宮道路は、紀伊半島アンカールートの一部を形成
- ◆南海トラフ巨大地震等の広域的な大規模災害が発生した場合、救命・救急活動や物資輸送等の緊急輸送道路



紀伊半島の大規模災害に備え、
紀伊半島アンカールートの早期確保

一般国道168号五條新宮道路
(地域高規格道路)の早期整備

1. 路線の状況(県内の一般国道168号)



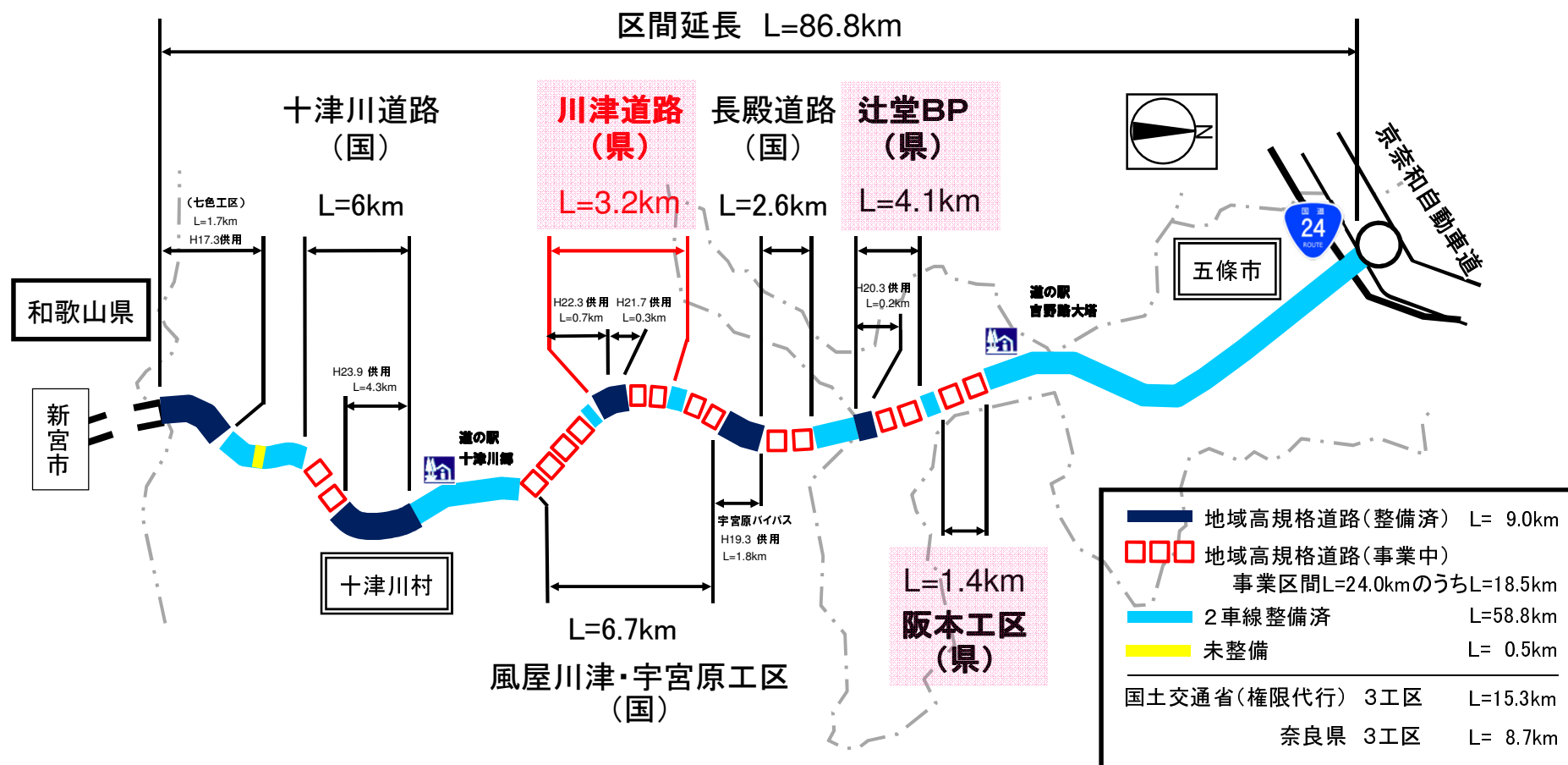
一般国道168号は、和歌山県新宮市を起点とし、大阪府枚方市に至る延長約180km(奈良県域約122km)の主要幹線道路

北・中和地域においては、第二阪奈道路や西名阪自動車道、中和幹線、南阪奈道路など東西交流軸と接続する道路であり、日常生活や産業活動を支えるうえで欠くことのできない道路

南和地域においては、世界遺産をはじめとした観光や林業等の地域産業の振興、災害時には地域の孤立を防ぎ緊急輸送道路として物資輸送や緊急救助活動を支援し、災害に強い紀伊半島を実現する道路

1. 路線の状況(地域高規格道路の着手状況)

◆一般国道168号「五條新宮道路」(地域高規格道路)の着手状況



◆一般国道168号「五條新宮道路」は地域高規格道路として規格の高い道路を整備

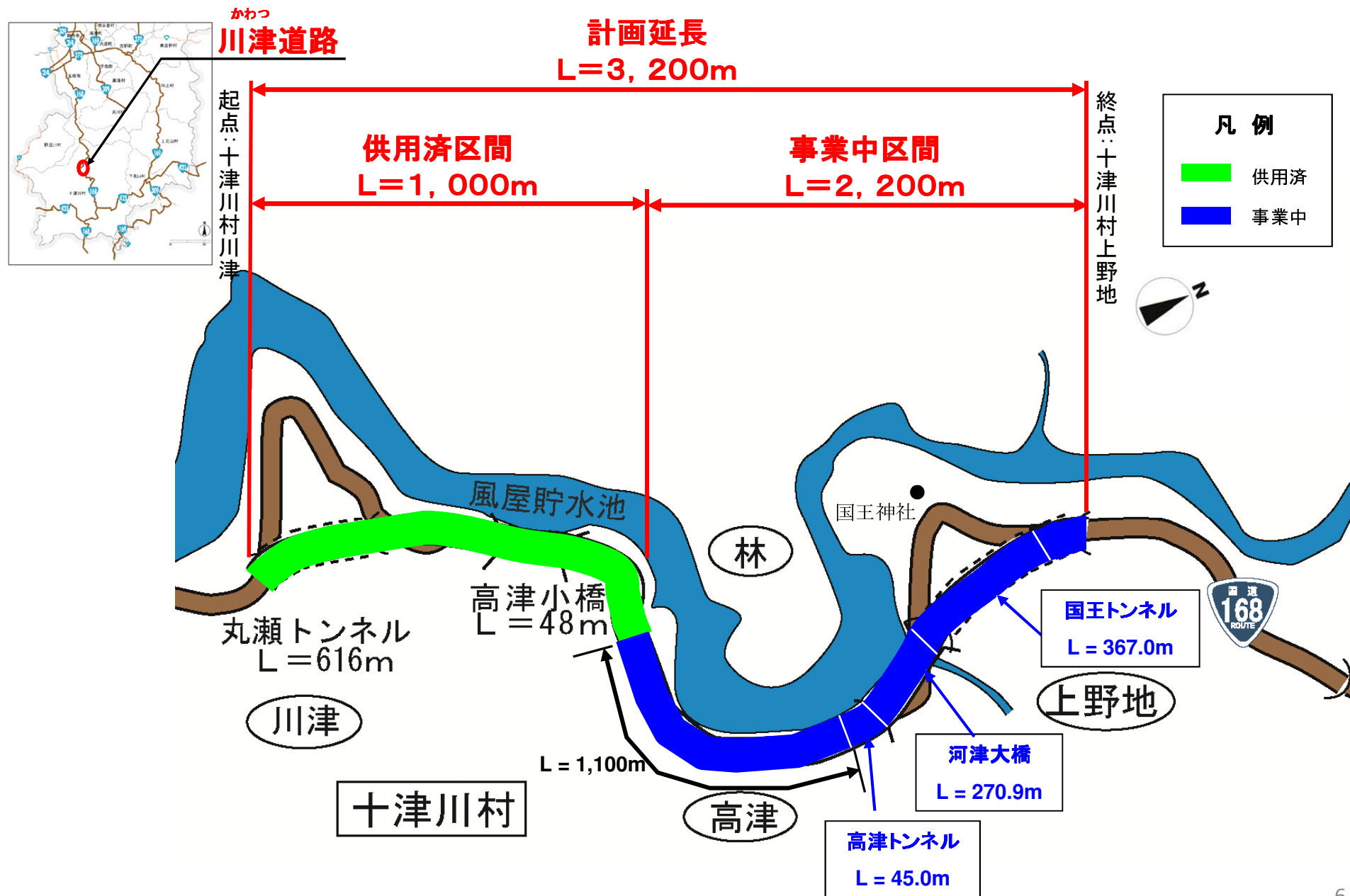
- ・直轄権限代行3工区15.3kmと奈良県3工区8.7kmを整備
- ・川津道路は県事業区間の3.2km

2. 川津道路の事業の概要

◆川津道路 事業概要

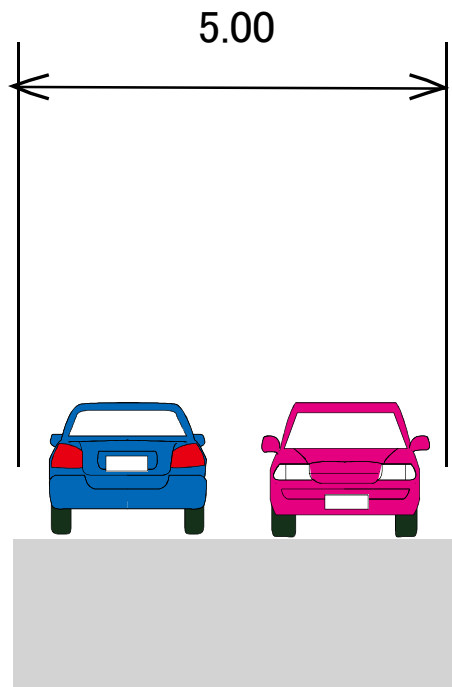
路 線 名	: 一般国道168号
工 区 名	: 川津道路
事 業 区 間	: 自)奈良県吉野郡十津川村川津 : 至)奈良県吉野郡十津川村上野地
計 画 延 長	: L=3. 2km
構 造 規 格	: 第3種第2級
設 計 速 度	: V=60km/h
車 線 数	: 2車線
道 路 幅 員	: W=8. 5m
事業化年度	: 平成17年度
全体事業費	: 約86億円

2. 川津道路事業の概要(計画平面図)

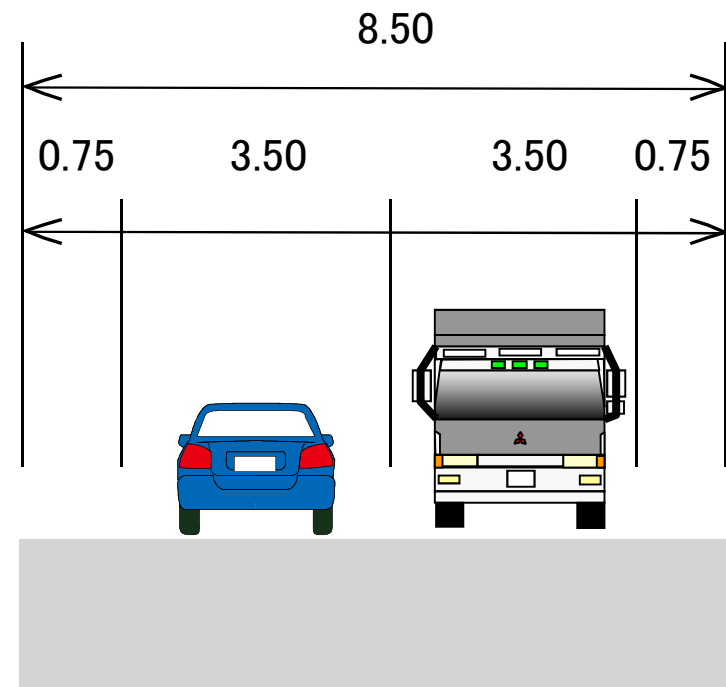


2. 川津道路事業の概要(計画断面図)

現況



計画断面図



3. 事業の必要性等に関する視点

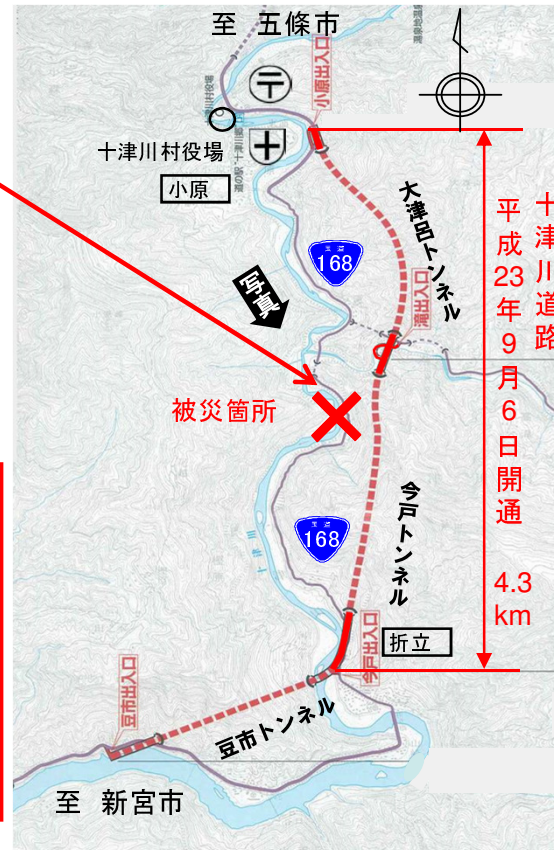
1) 事業の整備効果

- 南海トラフ巨大地震等の大規模災害への対応
- 紀伊半島における広域的な緊急輸送道路の確保

○ 地域高規格道路として整備した十津川道路は、紀伊半島大水害時(H23.9)も被災することなく「**命の道**」として機能を発揮
現道は大きく被災し通行不可、**高規格の十津川道路は被害なし**



折立地内において地滑りが発生



十津川村長の発言 (H23.9.10共同インタビュー)

村は1年のうち、トータルで約1ヶ月に相当する日数が雨量規制等で通行止めとなります。小原～折立間、この19日に開通する予定だった十津川道路があったおかげで、命が繋がったと感じています。

4.3kmの区間であるが、国土交通省が直轄で造ってくれました。これだけ雨が降ってもビクともしません。

「**命の道**」として安定した通行の確保

3. 事業の必要性等に関する視点

1) 事業の整備効果

- 土砂崩落等による通行規制の回避
- 十津川村～五條市間の緊急輸送道路の確保



○ 紀伊半島大水害(平成23年)により一般国道168号が被災

- ・ 62日間にわたり一般車両通行規制
⇒ 一般国道425号、169号、370号を走行する大幅な迂回
- ・ 十津川村役場～五條市役所間
⇒ 通常: 約1時間20分 → 迂回: 約3時間10分
(約1時間50分増加)

年度	雨量規制		土砂崩落等		合計	
	延べ日数	箇所数	延べ日数	箇所数	延べ日数	箇所数
H21	7	12	69	6	76	18
H22	6	15	0	0	6	15
H23	34	24	410	16	444	40
H24	6	10	1	3	7	13
H25	13	20	29	4	42	24

国道168号(県境～五條市)の通行規制状況(年間)

※延べ日数=各規制箇所における規制時間の総和を日数に割り戻したもの

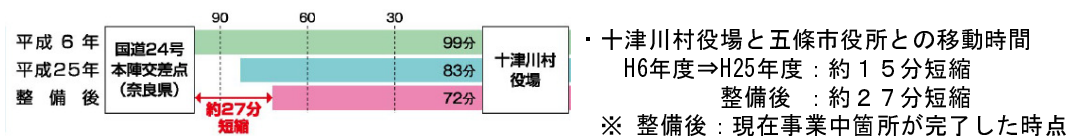
3. 事業の必要性等に関する視点

1) 事業の整備効果

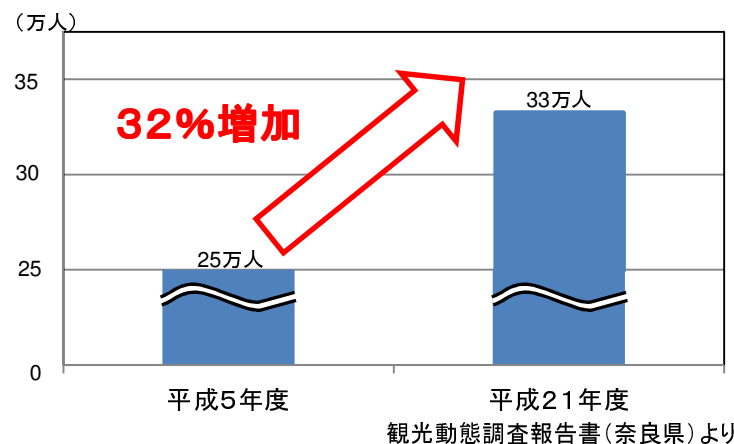


出典：奈良県地域振興部

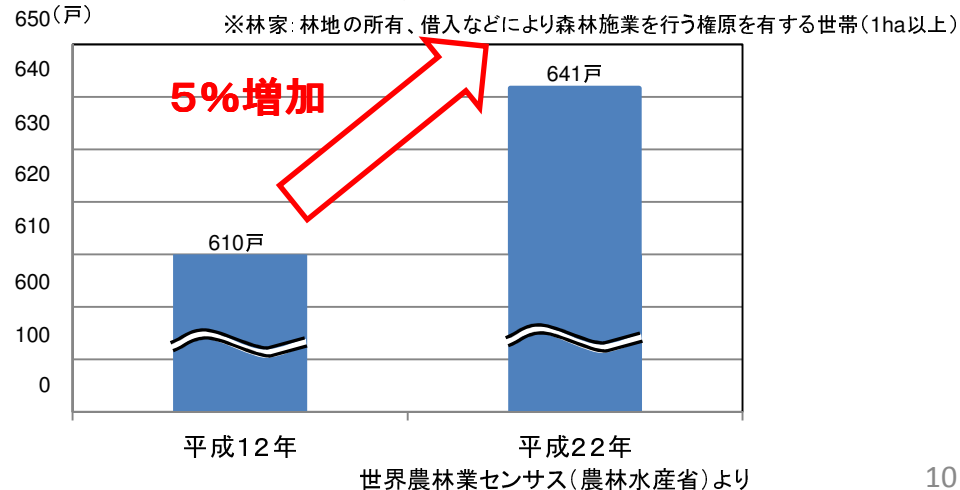
○五條新宮道路の整備により、観光及び産業の活性化が期待できる。



十津川村の観光客数が増加



・林業が活性化し、林家数が増加



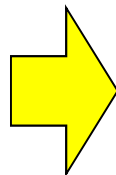
3. 事業の必要性等に関する視点

1) 事業の整備効果(川津道路 供用済区間)

◆幅員狭小の解消(車両のすれ違いが困難)



車両のすれ違いが困難
(十津川村大字高津地内)

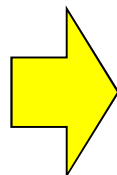


供用した区間
(十津川村大字高津地内)

◆線形不良の解消(見通しが悪く、危険な通行状況)



線形不良箇所
(十津川村大字高津地内)



供用した区間
(丸瀬トンネル)

3. 事業の必要性等に関する視点

2) 事業の投資効果

■事業全体

便益(B)	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	総便益	費用便益比 (B/C)
	108億円	20億円	1億円	129億円	
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用	1.5
	85億円		0.5億円	86億円	

■算出条件等

基準年	: 平成26年度
検討期間	: 50年間
現在価値算出のための	: 4%
社会的割引率	
交通量の推計時点	: 平成42年度
推計に用いた資料	: 平成17年度 道路交通センサス
適用した費用便益分析	: 平成20年11月版 マニュアル
事業費	: 82.2億円
維持管理費	: 797千円/km
作成主体	: 奈良県

■残事業

便益(B)	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	総便益	費用便益比 (B/C)
	108億円	20億円	1億円	129億円	
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用	11.7
	10億円		0.5億円	11億円	

※1 便益・費用については、現在価値化した値である。

※2 残事業については、基準年の翌年度以降の残事業費及び翌年度以降の供用により発生する便益で算出している。

3. 事業の必要性等に関する視点

3) 奈良県における計画等

■ 奈良県における事業の位置付け

○一般国道168号「五條新宮道路」・川津道路を以下の計画に位置づけている。

・奈良県道路整備基本計画(平成26年6月)

川津道路を骨格幹線ネットワークに位置づけ、最重要課題として、その重点的な整備を推進

・奈良県紀伊半島大水害復旧・復興計画(平成24年3月)

紀伊半島アンカールートの早期整備

国道168号五條新宮道路 川津道路の整備推進(平成27年度 事業完了目標)

・奈良県南部振興計画(平成23年3月)

紀伊半島アンカールートの早期整備

国道168号五條新宮道路 川津道路の整備推進(平成27年度 事業完了目標)

■ 地元の協力体制

○国道168号(五條・新宮間)整備促進協議会(平成3年2月設立)

・構成メンバー 四市四町三村

奈良県(五條市 十津川村 野迫川村)

一市二村

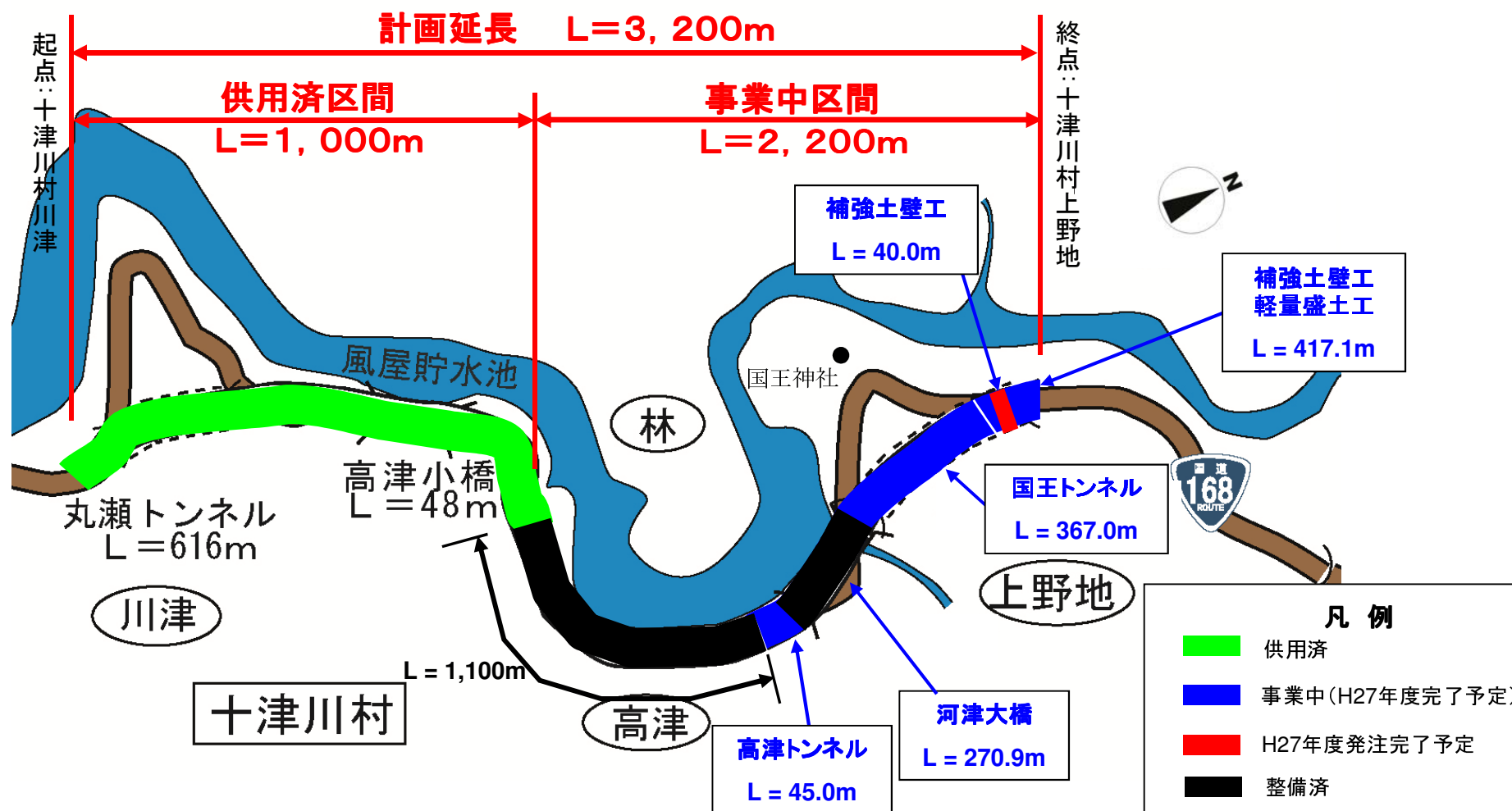
和歌山県(新宮市 田辺市 太地町 那智勝浦町 北山村)

二市二町一村

三重県(紀宝町 熊野市 御浜町)

一市二町

4. 事業進捗の見込みの視点



- 平成26年度以降はトンネル工事、補強土壁工事、軽量盛土工事を予定
- 平成27年度の事業完了を目指す。

5. コスト削減の視点

◆コスト削減に配慮した施工

- 鋼橋上部工に耐候性鋼材や、トンネル照明設備にLEDを採用するなど、より一層コスト削減に努めながら、引き続き事業を推進



耐候性鋼材



LED照明

6. 対応方針(案)

1. 事業の必要性等に関する視点

- 南海トラフ巨大地震等の広域的な大規模災害に対応が可能となる。
- 五條新宮道路の整備により、観光及び産業の活性化が期待される。
- 幅員狭小や線形不良が解消される。
- 費用便益費(B/C)は事業全体で1. 5、残事業で11. 7。

2. 事業進捗の見込みの視点

- これまでに、丸瀬トンネル、高津小橋を供用。
- 現在、残る区間のトンネル工事、補強土壁工事、軽量盛土工事を推進中。
- 引き続き事業を推進し、平成27年度の事業完了を目指す。

川津道路は、事業の必要性等に関する視点、事業の進捗の見込みの視点から継続が妥当と判断できる。

引き続き事業を推進し、平成27年度の事業完了を目指すことが適切である。

事業継続